

「参加」「交流」「学習」を軸としたコミュニティ自治の展開 プロセスと次世代に向けた地域に根ざした継承価値の創出

-特定非営利活動法人かみえちご山里ファン倶楽部-



大正大学 地域創生学部 地域創生学科
エンロールメント・マネジメント研究所
出川真也研究室

①地域の概要

上越市西部、通称、桑取谷と呼ばれる中山間地域において、「守る・深める・創造する」ことで豊かな里山・里海の地域文化を育むことを理念として活動を展開している。お祭りや神楽伝承などの地域活動の支援や民俗文化の保全と記録、農産物加工、カフェ、旅館などの地域資源を活かした産業づくりに取り組んでいる。

近年では、地元高齢者を対象としたサロン運営・地元子ども達への地域教育（Uターン教育）に力を入れている。また上越市からの受託事業（水源森林公園や環境教育施設の運営）を行うなどその活動は多岐に渡る

地域内外をつなぎながら、自立した地域コミュニティづくりを目指している

②調査の手法

(1) 情報収集手法

- ・コーディネータースタッフへのヒアリング
- ・団体発行書籍の分析
- ・団体活動資料の分析
- ・ロジックモデルシートを用いた参加型アセスメントワークショップの実施

(2) 分析手法

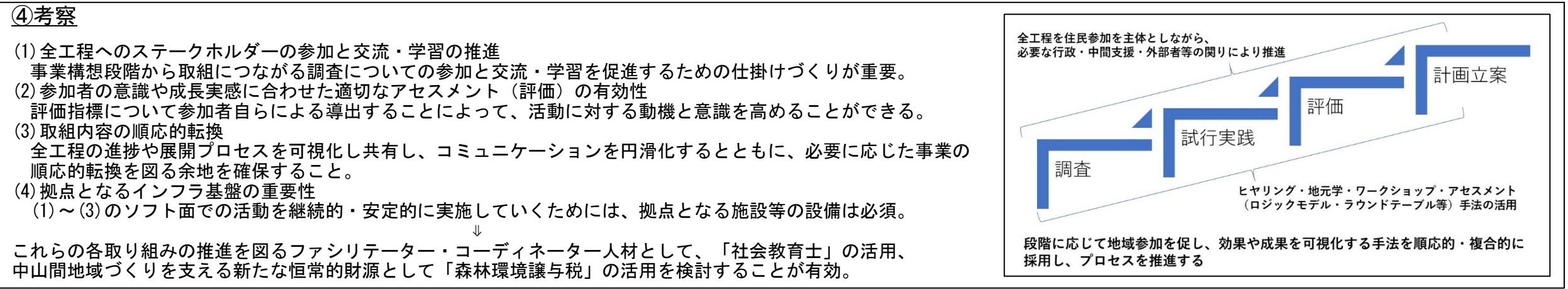
- ・コミュニティ自治展開マトリックスによる分析
- ・ロジックモデルシートによる分析

(3) 考察手法

- ・分析結果を用いた知見導出と波及展開のための提案

③調査・分析結果

地域づくりの各主体の関わり				
		内部の 合意形成・ 意思決定	行政・中間支援組織 との連携	外部との 関わり
地域づくり活動の段階	問題意識の共有 2001年以前	■ゴルフ場建設問題と新たな地域づくり構想「リフレッシュビレッジ構想」 ■明日の桑取を考える会 ■各種地域団体の立ち上げ	■行政支援を受けたNPO組織による地域資源に関する包括的調査「森林・景観・教育」に関する調査・研究事業	■ウッドワークとリフレ事業と連動した地域資源に根ざした産業への萌芽的活動（地域間伐材利用）
	活動開始 2002-2005年	■NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部設立 ■地域活動支援事業	■受託事業実施と経験築盛 ・地球環境学校 ・くわどり市民の森	■地元企業連携 くわどりゆったり村 ■地域関係団体連携 桑取フレッシュ生産組合 他
	発展 Ⅰ期 2006-2010年 Ⅱ期 2011-2015年 Ⅲ期 2016-現在	■地域資源調査による活動の見直しと事業基盤構築（体験・販売・文化） ■経済（生業）活動と福祉・教育事業の重点化	■各種行政受託事業の拡充 山の子どもの国事業他 ■地域学校協働活動推進 遊びの達人教室、総合学習	■メディア発信 ■他団体視察 ■企業連携の推進 ■大学連携・有識者の知見を活かした新たな展開構築



はじめに

社会教育・生涯学習論からの「コミュニティ自治」展開プロセス研究の視点

①地域人材育成に関する基礎概念・理論研究（生涯学習・社会教育学）、

②地域人材育成を行うための基本技術・手法・評価・方法論研究（成人教育学）

③地域活動・人材育成組織との協働実践研究

研究室の主要研究・実践活動

1. 地域回帰の教育研究

- ・「『地域回帰』志向の形成過程とその教育的要因の類型的・数値的解明に関する研究」（平成29年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金H29-31）研究代表者）を軸としながら、地域担い手人材育成に関する基礎研究を行っています。

2. EMIRと教育研究

- ・大正大学エンロールメント・マネジメント研究所を拠点にしながら、教育アセスメント（評価）や学修成果の可視化に関する調査分析等にかかわる方法論的研究を行っています。

3. 学生と教育活動

- ・社会教育主事課程や地域創生学部地域教育関連科目、主宰する学生自主研究会等を通じて、地域づくりと地域人材育成のための教育活動に取り組んでいます。

4. 地域社会と教育実践

- ・農山漁村から都市部まで、多様な地域の活動者・団体・組織等との連携・協働による教育実践活動に取り組んでいます

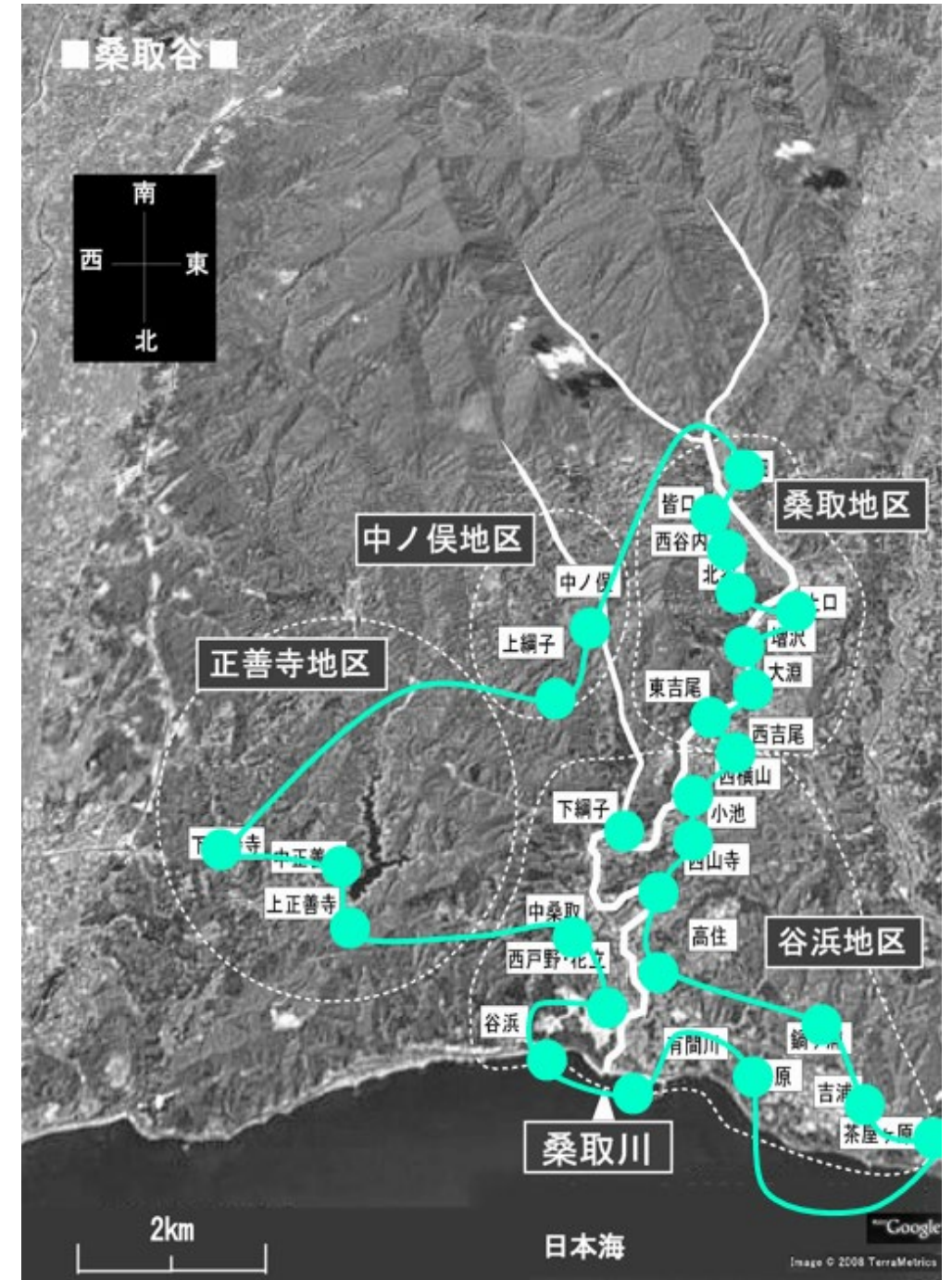
1. 調査研究の概要

1-1. 地域概況

上越市西部、通称、桑取谷と呼ばれる中山間地域において、「守る・深める・創造する」ことで豊かな里山・里海の地域文化を育むことを理念として活動を展開している。お祭りや神楽伝承などの地域活動の支援や民俗文化の保全と記録、農産物加工、カフェ、旅館などの地域資源を活かした産業づくりに取り組んでいる。

近年では、地元高齢者を対象としたサロン運営・地元の子ども達への地域教育（Uターン教育）に力を入れている。また上越市からの受託事業（水源森林公園や環境教育施設の運営）を行うなどその活動は多岐に渡る

地域内外をつなぎながら、自立した地域コミュニティづくりを目指している



1-2. 調査研究の概要

1) 「コミュニティ自治」の展開過程の解明

- ①地域づくり活動の段階
- ②地域づくりの各主体の関わり

2) 高齢者及び若者向け活動への着眼

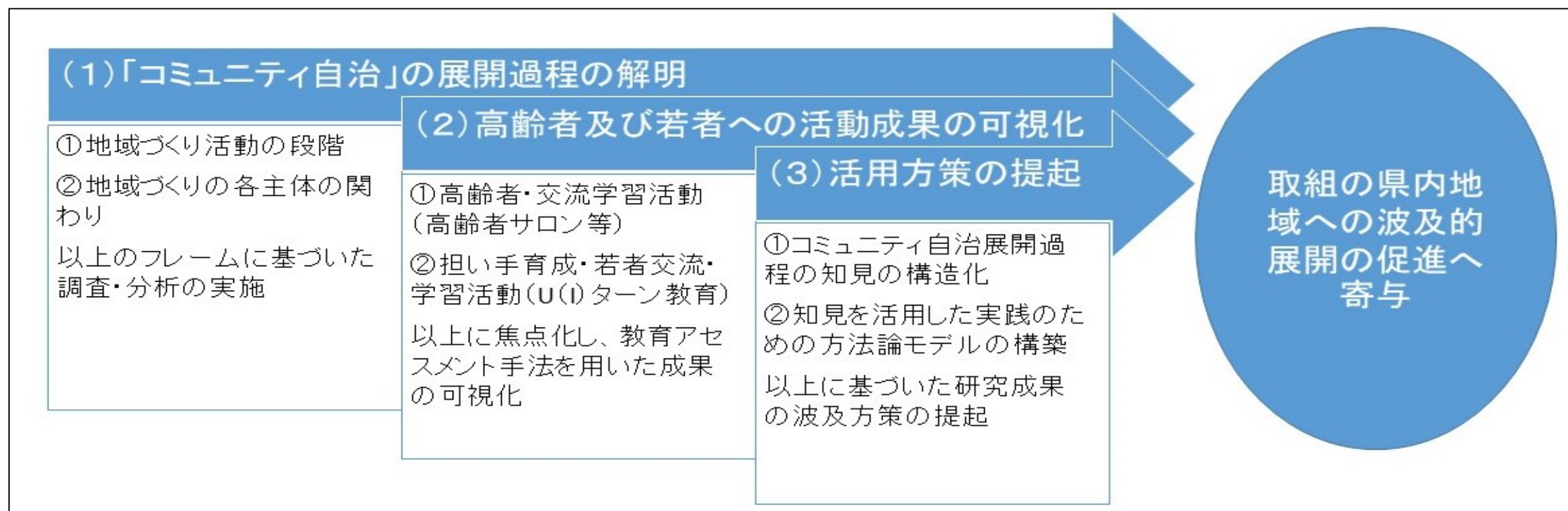
- ①高齢者・交流学習活動（高齢者サロン等）
- ②担い手育成・若者交流・学習活動（Uターン教育）
- ③アセスメント（評価）ワークショップの実施

3) 分析と考察

プロセス分析とアセスメント

（評価）分析結果に基づいた考察

4) 研究成果の活用方策に関する提起



2. 調査研究の内容と結果

2-1. コミュニティ自治の展開過程

(1) 問題意識の共有（2001年以前）

契機となった地域背景、団体設立や事業開始に向けた各種調査や合意形成

(2) 活動開始（2002～2005）

NPO法人化・委託事業受託と行政との連携事業の本格実施

(3) 発展（2006年～2019年）

活動の自己点検と主要事業実施体制の確立、地域経済・福祉に係る事業拡張

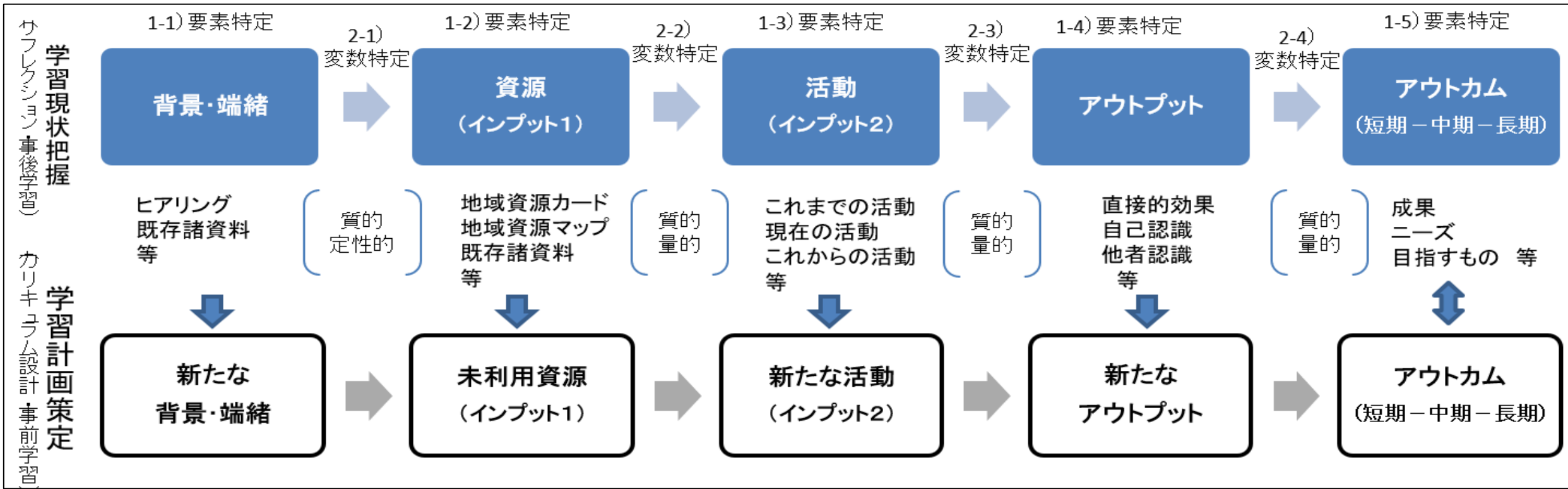
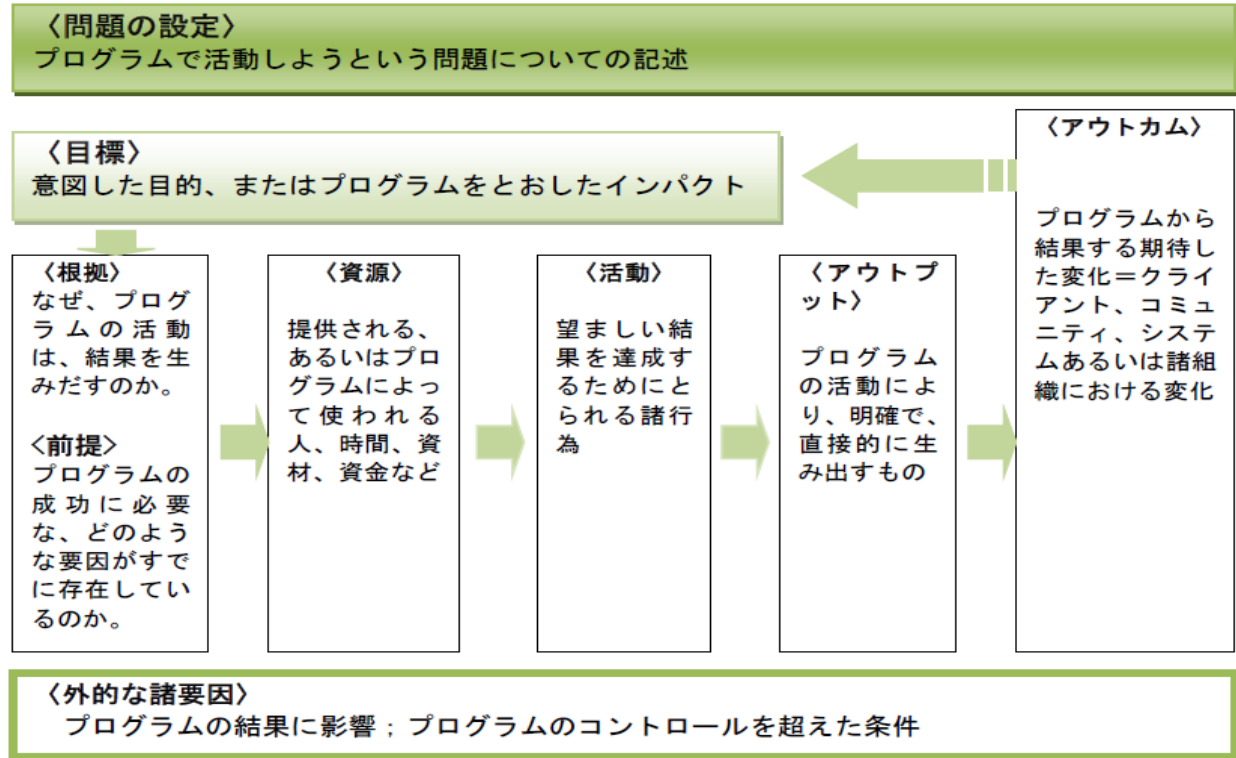
I 期（2006～2010）：基幹事業の継続体制の確立（再調査と主要事業の推進体制の確立）

II 期（2011～2015）：波及的拡充（経済的（生業）活動の展開）

III 期（2016～）：集約化（高齢者サロンと教育事業の重点化）

2-2. 高齢者・若者への着眼と地域団体活動に関するアセスメント（評価）ワークショップの開催

- ・参加型アセスメント（評価）の視点
- ・参加型の評価指標導出
- ・ロジックモデルの活用



(参考) ワークショップで使ったシートと実施状況写真

参加型教育アセスメントWSロジックモデルシート

1. これまでのプログラム要素

①インプット(資源)	②インプット(活動)	③アウトプット(効果)	④アウトカム(成果)

2. 新たなプログラム要素

--	--	--	--



3. 分析と考察

3-1. コミュニティ自治の展開過程に関する分析と考察

3-2. 若者・高齢者活動を視野に入れたロジックモデルによるアセスメント（評価）
ワークショップに関する分析と考察

3-3. コミュニティ自治展開のための考察と結論



(1)全工程へのステークホルダーの参加と交流・学習の推進

事業構想段階から取組につながる調査についての参加と交流・学習を促進するための仕掛けづくりが重要。

(2)参加者の意識や成長実感に合わせた適切なアセスメント（評価）の有効性

評価指標について参加者自らによる導出することによって、活動に対する動機と意識を高めることができる。

(3)取組内容の順応的転換

全工程の進捗や展開プロセスを可視化し共有し、コミュニケーションを円滑化するとともに、必要に応じた事業の

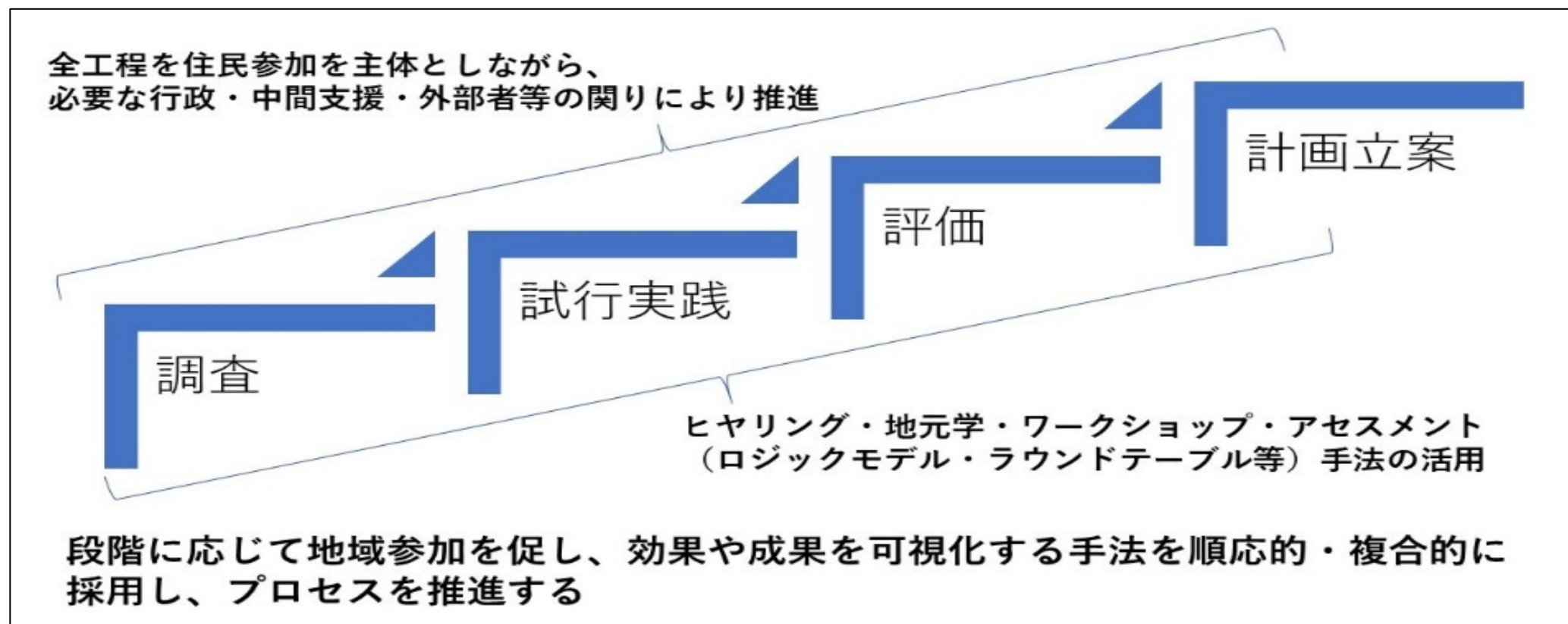
順応的転換を図る余地を確保すること。

(4)拠点となるインフラ基盤の重要性

(1)～(3)のソフト面での活動を継続的・安定的に実施していくためには、拠点となる施設等の設備は必須。

4. 本調査事業成果の活用方策について

(1)活動を着実に展開する「段階的自立」の考え方と手法の複合的活用視点



(2)プロセスにおいて「参加」「交流」「学習」を促進する支援方策

- ・「社会教育士」の配置と活用
- ・森林環境譲与税等の人材育成系財源としての活用